

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年8月20日

氏名 (フリガナ)	近藤俊介 (コンドウシュンスケ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土)
大学名	東京慈恵会医科大学
学年	5年
<p>非常に充実した6日間の研修を送らせていただき、大変感謝しております。</p> <p>日米医学医療交流財団、および医学部夏期集中医学英語研修プログラムに関わる方々に感謝申し上げます。</p> <p>今回のプログラムに申し込んだのには主に2つの理由があります。</p> <p>ひとつは、私は大学のプログラムで、6年次にアメリカでの短期留学を控えております。しかし、アメリカでの実習で必要と思われる History taking や Case presentation の学習は独力では限界があると思いました。今回のプログラムではその部分を特に重点的に補うことができると考えました。</p> <p>もうひとつの理由としては、アメリカでの医療を見てみたいと思ったからです。私は今までアメリカで住んだこともなければ、実際にアメリカでの医療を見たこともありませんでした。そのため、実際にどのような医療が行われているのかをみてみたいと思ったことも大きな理由でした。</p> <p>研修を終えた感想としましては、非常に密度の濃い研修であり、考えていた目標を十分に達成しうるものであったと思います。</p> <p>History taking や Case presentation に関しては、午前午後に分かれて様々な段階から指導をいただき、JABSOM の学生を相手に練習をして、その後実際にアメリカで臨床に従事される先生方から大変多くのフィードバックをいただくことができるという大変貴重な機会になりました。フィードバックごとに自分の弱点が明らかになり、最初は非常に大変に感じました。しかし最後には、明らかに初日と比べて改善させることができましたと自分でも感じるようになりました。</p> <p>また、プログラムの中では St. Luke's Clinic や Kuakini Medical Center という、いわゆる市中病院とクリニックを見学することができ、ドクターの話も非常に参考になるものでした。さらに、John A. Burns School of Medicine(University of Hawaii Medical School)を見学してアメリカの医学教育について、として social justice のレクチャーも聞かせていただきました。</p> <p>さらに、私が考えていなかった、嬉しい予想外のこととして、集まった他の大学の学生と交流を持つことができ、良い刺激になったことがあります。大学の中に留まっていたは決して知り合うことができなかつた学生と交流し、様々な考え方や勉強法を聞くことができ、非常に今後のモチベーションを高めることができました。今回の出会いが実は最も貴重なものであったのかもしれないと考えております。</p> <p>最後となりましたが、研修中に様々な面からサポートしてくださった先生方、東海大学および Hawaii Tokai International College の方々、そして日米医学医療交流財団の皆様へ改めて御礼申し上げます。本研修プログラムを通して学んだことは、将来の日本の医療に必ず還元致します。6日間ありがとうございました。</p>	